

グローバル通信

Ryukoku University

GLOCAL TSUSHIN

2024. 08 vol. 65

ソーシャル・イノベーション人材の養成にむけて	1
高畑委員長挨拶	2
地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ	2
2024年度特別演習 新入生紹介	3
2023年度の大学院生活を振り返って	4
グローバル通信編集スタッフ紹介	4
事務局インフォメーション	4

2024年度が始まってからまもなく5ヶ月が過ぎ、1年目の学生はそろそろ大学院生活に馴染んできたのではないのでしょうか。2年目の学生も中間報告会、その後の夏休みと、いよいよ修士論文の提出に向けて本格的に取り組んでいる頃だと思います。

各々が様々な分野について懸命に取り組み、互いに意見を交わすという環境に身を置くことは、切磋琢磨のエネルギーを与えてくれるのではないのでしょうか。互いに助け合い、研究に励んでいきたいと思います。



ソーシャル・イノベーション人材の養成にむけて

中森 孝文

(龍谷大学大学院 政策学研究科長)

現代社会では、科学技術のみでは解決できない多くの課題があります。地球温暖化や脱炭素化といった環境問題や、貧困や経済格差といった世界規模の問題、国内では過疎や少子高齢化、消滅可能性自治体の問題、オーバーツーリズム、人手不足や地域産業の衰退など、多くの課題が山積しています。一方、国や地方の財政悪化に伴い、行政が解決しうる課題は限られており、社会課題の中にあるポテンシャルを見抜き、それらを活用しながら新たな価値を創造するイノベティブな発想が必要になります。

これまで人間によって多くの発見や発明がありましたが、それらには何らかの課題を解決するための試行錯誤が役立っていることが少なくありません。早く遠くの目的地に到着したいと思うがゆえに、乗り物が生まれ改良されていったように、課題解決にむけた努力や工夫が新しい価値を生みます。

一方、筆者が生まれた昭和の時代とは異なり、今は欲しいものと言われることも少なくありません。若者に「今、もっとも欲しいものは何か」と尋ねたらかなりの割合で「お金」と答える人がいます。要するに、欲しいものがない時代です。ですから、企業は新しい製品やサービスを生み出そうと躍起になっていますが、その時に、社会課題に注目することも有効です。河川や湖などの環境問題に対応するために無リン化に向けた取組みを進めた洗剤や、駅の改札の大混雑を緩和するために生まれた自動改札機など、社会課題を解決するために新たな価値を生み出しました。それらの努力が、私たちの生活の安全性や利便性を格段に向上させました。このように、社会課題に着目し、その解決にむけた新しい仕組みを考えることが、新たなビジネスを生み出すことにつながります。

このような、社会の課題を見つめ、そこにあるポテンシャルを見抜き、それらを用いて新しい価値を生み出して社会の当たり前を変えていくことがソーシャル・イノベーションです。そして、ソーシャル・イノベーションに貢献しうる人をソーシャル・イノベーション人材と呼び、私たちは当該人材を養成するプログラムを開発することにしました。

ソーシャル・イノベーションには、自然科学だけでなく人文・社会科学の多様な知見が必要になります。多くの人文・社会科学系の知恵の融合には、単に一つの大学院だけでなく、多くの大学院の連携が必要になります。このため、令和5年度の文部科学省「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」のご支援を受け、龍谷大学大学院政策学研究科、京都文教大学大学院臨床心理学研究科、琉球大学大学院地域共創研究科が連携し、人文・社会科学系のほとんどの研究領域をカバーしうる状態で、教育カリキュラムを設計することにしました。

また地域公共政策士の設計や運用で培った知見やノウハウをもとに、ソーシャル・イノベーション人材の認証制度も同時に開発を進めています。

近年では社会人の学び直しのニーズが高まっています。リカレントやリスキリングの機会をもとめて働きながら学ぶ人も増えています。キャリアチェンジを目指す人や、現在の仕事に活かす知識やスキルを習得するために学び直しをするが増えています。民間企業、公務員や政治家、士業、NPOの関係者など、多くの人が熱心に学び直しをしていらっしゃいます。さらに、本学でも60歳代の人が学位取得にむけて学び直しにいらしています。昭和の時代は60歳になれば勇退だったかもしれませんが、令和の時代はまだまだこれからです。それらのリカレントやリスキリングのニーズを大学院が受け止められるように、龍谷大学大学院政策学研究科では、「ソーシャル・イノベーション研究コース」を2025年度から開講します。

リカレントやリスキリングに興味のあるみなさん、民間企業や行政、NPOなど多様な領域で活躍していらっしゃるみなさんに、ソーシャル・イノベーションを学べる機会を提供してまいります。多様な大学院生が、知恵を出し合いながら共に学べる場に、是非ともいらしてください。

委員長挨拶

地域公共人材総合研究プログラム運営委員長を務めています高畑重勝と申します。

地域公共人材総合研究プログラムは、2003年度から開設している大学院修士課程のプログラムです。20余年の実績を重ね、これまで数多くの高度な専門的職業人を輩出してきました。

このプログラムの特徴は、地域社会を支えるさまざまな立場の社会人院生と、学部から進学した大学院生が相互に刺激し合い、高め合う、理論と実践を架橋する学びの場となっていることです。教員の私自身も、担当している特別演習の時間は、院生の皆さんが披露される論文の内容やその議論に刺激され、とても楽しく、気づきを得る時間になっています。

また、法学研究科と政策学研究科の共同運営による多彩な履修科目の開設は、学びの広がりを生み、能力の幅を広げる機会となっています。人々の暮らしと経済、生きることそのものにつながる公共の課題を対象に、さまざまな立場から、その解決に向けて、考え、学び、議論する過程を通じて、高い政策立案能力、課題解決能力を培うことができます。

社会は、様々な課題を抱えながら、日々大きく変化しています。未来の社会にあっても、人が生きる基盤である地域に軸足を置き、高い倫理観の下に専門的な知識と高度な課題解決能力を持つ地域公共人材は、ますます活躍が期待されるものと確信しています。このプログラムを通じて、未来を創る多くの人々が集い、学び、ともに高め合えることを願っています。

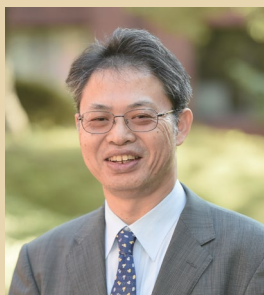


地域公共人材総合研究プログラム
運営委員長

高畑 重勝

(龍谷大学政策学部教授)

地域公共人材総合研究特別演習担当者からのメッセージ



松尾 秀哉

(龍谷大学法学部教授)

法学部所属の松尾です。専門はヨーロッパ政治史です。早いもので、龍谷大学着任以来、この土曜クラスを担当するようになって7年目になります。毎年このクラスは、社会人学生の方と大学院学生の方とが熱心に議論する場になっており、社会人経験を経て大学院に進学した私も、若き日の自分を思い出しながら楽しみに参加しています。

このクラスの最大の特徴は、立場や年齢、経験の違いを超えた者たちがそれぞれの意見を言い、また聞くことで、自分の考えを独りよがりせずに共有すること、すなわち特殊な意見を一般化する可能性を秘めていること、そしてその過程で自分の話を理解してもらうために「共通言語」を取得できることにありと感じています。

自分の殻に閉じこもって考えていると、慣れないうちは自分だけで話が完結してしまいがちです。しかし研究は他の人に理解してもらって初めて評価され、価値あるものになります。高畑先生、松尾、そして後期、私は渡辺先生にバトンを渡します。色々な意見を聞き、ときには振り回され、そして自分の立ち位置を確固たるものにしてください。振り回されることも成長には必要です。それを大いに楽しんで参加してください。



内田 恭彦

(龍谷大学政策学部教授)

今年度より政策学部の教員となり、地域公共人材総合研究特別演習を担当しています。数か月の経験から、本演習は各院生の修士論文を指導教員とは別に2名の教員がサポートを行う、とてもユニークなものだという印象を持っています。

最大の特徴は様々な国の学部から直接上がってきた学部卒院生と、社会人院生から構成されていることです。学部卒院生にとっては社会人院生に社会の現実や過去からの経緯といった知識を教えてもらい、また社会人院生はともすると現実引っ張られ理論検討に影響を来すこともあるでしょうが、学部卒院生のビュな意見などからより柔軟な思考を得ることができるでしょう。またグローバルな視点からローカルな現象を捉え直すこともできるでしょう。このようにお互いを刺激しながら、良質の研究を行うことができると確信しています。

私はかつて修士を学部卒院生として、博士課程を社会人院生として経験しました。この経験を踏まえ、様々なバックグラウンドを持つ院生相互の活発な議論をファシリテートし、また現実と理論の橋渡しをサポートしていきたいと思っています。そして皆さんの研究が本演習を通じて現実をより深く洞察し、より頑強な説明を与え、より創造的な社会課題の解決へと誘うものになることを期待しています。



白石 克孝

(龍谷大学政策学部教授)

地域公共人材総合研究プログラムのコアをなすのが必修の特別演習です。専門性も所属も異にする教員が複数で指導し、現職の社会人院生と若手の院生・留学生院生とが学びます。各自の研究テーマは文字通り多様ですが、いろいろな角度からスポットライトが当てられることで、課題が立体的に浮かんできるということを何度も味わってきました。多彩な院生が互いに出会いに刺激され、新しい学びのスタイルが生まれていると自負するものです。

ひとつお願いがあります。社会の課題に主体的に立ち向かおうとしている皆さんが多く参加します。修士号を取得することが本プログラムの最終目標ではなく、社会の課題を受けとめ、打開したいと考えるモチベーションを獲得することが真の目標です。これまでそうであったからこそ、文系院生を定員充足するという「快挙」が続いているのです。どうかこの点を忘れないで院生生活を送ってください。

本年度も対面を基本に開講しています。対面講義にどうしてこだわるのかと言えば、職場も違い、年齢も経歴も違う人との出会いは、年齢を重ねるほど貴重だからです。同窓生ネットワークができるような関係が生まれることを願ってやみません。

土曜日クラス

本コースに新たな新入生が入学されました。特別演習ごとに新入生の自己紹介と集合写真を掲載しております。

① 名前 ② 自己紹介・研究テーマ・関心のある分野



①：安道亮

②：役職定年を機に会社を早期退職して入学しました。法学部出身なので政策学については素人ですが、授業や課題が新鮮でいろいろなテーマに興味がありすぎて困っています。会社では人事、経理、営業、法務を経験しましたが、最後の部署が経営リスク管理のチームにいたので、そちらへの興味が強いです。

①：鎌田康輝

②：大学時代に地域交通や都市政策に興味を持ち、修士論文では、廃線跡の利活用方法について研究したいと考えております。現状、廃線跡は多くが道路などに置き換わっていますが、都市公園やアトラクション化した事例もあり、非常に興味深い分野だと思っています。

①：井元遥己

②：私は学部生の頃から生態学に関心があり、様々なフィールドワークを行っていました。大学院では龍谷大学周辺の自然地域を対象に、人間社会と自然的環境の相互関係を理解できるような研究を行いたいと考えています。二年間の貴重な経験を今後活かせるように頑張りたいと思います。

①：川瀬遥奈

②：初めまして。私は都市計画・都市デザインを専門に研究しています。今は再開発事業に興味があり、勉強しています。みなさんとたくさんお話できたらと思っています！よろしくお願いします！

①：賀宇帆

②：皆さん、こんにちは！賀宇帆と申します、中国の陝西省から来ました。大学一年の時、初めてAIが搭載されたゴミ箱を見ました。その時とても好奇心をもちました。日本に来て、環境学を勉強したいと考え、このテーマを研究したいです。龍谷大学修士の二年間も廃棄物とAIが搭載されたゴミ箱を研究する予定です。

①：松尾裕樹

②：普段は京都市役所で働いています。入学した動機はカッコよく言えばリスキリングと自身が担ってきた仕事の振り返り…わかりやすく言えば「五十の手習い」(笑)自分が学ぶだけでなく、自身の経験を多くの方にシェアできたらいいなと思って授業に参加しています。関心分野は公共政策や都市計画全般、専門は市民協働、地域まちづくり、公民連携です。

①：近藤瑛理奈

②：少子化対策について研究しております。私は子育て世代の代表として、こどもたちの輝かしい未来のため、市議会議員として日々奮闘しております。地域がかかえる様々な課題に直面する中で、その解決には今までの知識だけではなく、新たな角度からの学びの必要性を感じ、日々楽しく学ばせていただいています。

①：清水孝平

②：草津市役所の清水です。研究テーマは「自治体の債権管理を効率かつ効果的に行うための税情報活用について」です。約20年ぶりに母校に戻ってまいりました。仕事と勉学の両立は大変ですが、この歳になって学びの機会を与えていただいたことに感謝し、楽しみたいと思います。よろしくお願いいたします。

①：趙心童（チョウシントウ）

②：中国から参りました。2008年に中国の四川大震災が発生しました。四川大震災をきっかけに防災・災害政策に興味を持つようになりました。龍大で2年間、災害記憶の保存と地域メディアに着目して研究を進めていくとのこと、大変興味深く思います。今後ともどうぞよろしくお願いします。

①：本田リエ

②：私は一般社団法人大和ブランド推進協議会からプログラムに参加させていただきました。仕事をしながらの勉強は大変ですが、授業はどれも興味深く学びが大きいので改めて感謝しています。研究テーマ「大猫の殺処分ゼロを目的とした条例制定の課題について」関心のある分野「地方自治法」「公共政策の合意形成」

①：渡邊菜摘

②：「市民活動参画行動における心理的ハードル」について研究しています。学部生時代は地域コミュニティに興味を持っていたので、地域コミュニティとも絡めて研究を深めたいと思っています。普段は京都信用金庫に勤めています。大学院での学びを仕事にも活かしていきたいです。

水曜日クラス



①：恵川典子

②：子育て家庭の支援をするNPO法人代表をしています。縁あって龍谷大学院に入学し、学ぶ環境に身をおけることに感謝しています。妻として母として、そして職場での役目も果たしながらの院生生活は、苦労もありながらも、多くの刺激があり成長を実感する毎日です。世の中に恩返しができる人間になれるよう、日々精進していきます。

①：朴仁煥

②：私はPARK INHWAN(パクインファン、朴仁煥)です。韓国で公務員生活を15年ほどしていましたが、留学プログラムに選ばれ日本に来ることになりました。関心分野は財政部分であり、特に義務教育における国家財政配分システムについて韓国と比較して考えます。これからもよろしくお願いします。

①：王晴輝

②：関心のある分野はパブリックスペースと都市公園のマネジメントです。大学院で、同じ志を持つ仲間と切磋琢磨しながら、新しい発見や知識の習得を楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

①：王銳

②：こんにちは。王 銳 (ワン ルイ) です。出身は中国の四川省で、環境について関心を持っています。研究テーマは中国の再生可能エネルギー政策、特に中国版RPS制度、日本語でその効果と課題を分析し、構造的特徴を明らかにしたいです。

①：吉田伊織

②：花園大学社会福祉学科を卒業し、社会福祉士の資格を取得してきました。応急手当普及員という資格も持っています。実は子どもの居場所づくりのNPO法人の理事とLINE相談のスタッフを勤めています。消防団に所属し、消防団について研究しています。実は母「吉田照美」もNPO・地方行政コースの卒業生です。

①：日下英明

②：京田辺市役所勤務の55歳です。これまで市民活動促進の担当をしていました。今後はプライベートで地域での活動などに参加したいと考え、そのための新たな自分を作り上げるために日々学んでいます。仕事と大学院の二刀流は大変ですが、ここでの学びにはその大変さを上回る価値があると日々実感しています。

①：范伯淳

②：こんにちは。修士一年生の范伯淳です。近年、中国の都市化は近年急速な進展を遂げており、農村部への市街地土地面積の拡張は、農地の急激な減少につながり、生物多様性などを含む農業農村の多面的な機能の衰退に大きな影響を与えている。そのため、私は都市化と農地保護の生態問題に関心を持ち、日本の都市化と生態環境に関する経験を取り入れ、多様な視点から解決策を模索したいです。

①：谷口慎太郎

②：政策学部出身で、チーム政策5年目となります。主に地方議会について研究をしています。



2024年3月 25名（政策学研究科18名、法学研究科7名）が
修士課程を修了されました。今後のさらなるご活躍を期待します。

2023年度を振り返って

政策学研究科 修士2回生

吉田 瑞希さん

昨年度は多くの授業や研究発表の機会、また課外での活動にも取り組ませていただき、非常に学びの多い一年間になりました。授業では先生方や同級生と意見を交わしながら、多くのことについて学部の時より一段深く理解できたのではないかと思います。研究発表の機会では、学会に参加し発表を行うということ自体としても貴重な経験でしたし、また研究について学外の先生方にも意見を頂くことなどでもありがたい機会でした。課外での活動は、大学周辺の西浦町やその他いくつかの地域に関わらせて頂いてお祭りやワークショップの実施をお手伝いさせていただくなどしました。これも学部生よりも踏み込んだ立場で関わらせて頂くことができ、また授業で得た知識や研究テーマとの関わりから実際の政策の動きを考察する経験ともなりました。

こうした学びを、今年度は修士研究に活かして、また今後社会に出て行く中でも糧にして行ければと思います。

政策学研究科 修士2回生

谷澤 莉音さん

昨年度は、世代や専門分野も異なる大学院生の方々に日々刺激を受け、充実した年でした。

「地域公共人材総合研究特別演習」や研究室では、特に、現場で課題解決に取り組んでいる社会人院生の方から、研究に関するアドバイスをしていただき、非常に学びになりました。多様なバックグラウンドを持つ院生と意見を交わすことで、自分自身がまだまだ勉強不足と感ずることもありましたが、物事を多角的に考える力が養われ、成長に繋がったと感じています。先生方や院生の方に助けてもらいながら充実した年を過ごせたことに感謝しています。

昨年度はグローバル通信の編集担当として、政策学研究科について発信する機会をいただき、光栄に思います。このような経験を今年度の修士論文の研究に活かし、さらに社会に貢献できるように努めていきたいです。

編集スタッフ紹介



グローバル通信65号は、前年度担当の谷澤莉音・吉田瑞希と今年度担当の安道亮・佐竹星哉の4名で編集いたしました。2024年度も魅力あるグローバル通信をみなさまへお届けできるよう努めます。よろしくお願いいたします。

事務局インフォメーション

○地域公共人材総合研究プログラム

推薦入学試験要項データについて

メールにて入試要項データをお送りいたしました。進学を希望される方へのご周知をよろしくお願いいたします。